

様式 4

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施しているか。	B	区学習状況調査の算数におけるD・E層は1～3割、A・B層は5～7割と、学年によってばらつきが見られるものの、昨年度比で全体的に2割程度の上昇が見られた。5教科では51観点中、29観点が全国平均以上、もしくは同程度の結果である。 年間を通して3・4年生対象に、後半は2年生も対象に加えた放課後補習を実施した。引き続き、習熟度合わせた問題を自動選択できるドリルアプリの活用等を通して、個別に支援し、基礎的・基本的学習内容の定着の徹底を図る。	B	B
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行っているか。	B	<u>令和5年度保護者アンケート結果より</u> 「明るく楽しい学校生活を送っている」92% 「進んで登校している。」89% 「友達と仲良く過ごしている」93% 在籍学級とまなびの教室、日本語教室との連携を一層密にし、一人一人の教育ニーズに寄り添う支援の充実を図る。	B	A
	学校は、社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。	B	<u>令和5年度保護者アンケート結果より</u> 「地域と協力した教育活動・行事の運営」88% 生活科・総合的な学習の時間を通して、引き続き、地域と協働して取り組む活動の充実を図るとともに、墨田区学校支援ネットワーク事業の活用を通して、自己の生き方を見つめることができる学習を展開する。	B	B
	学校は、教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	A	国語の研究に取り組み、各学年の授業が主体となる授業の構築に向けた研修を重ねている。また、学力委員会が中心となって立てたふり返り期間等のA Iアプリの効果的な活用等を通して、各学年で習得すべき学習内容の更なる定着を図る。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等				

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行っているか。	A	生活指導の情報交換を行う職員打ち合わせを定期的に開催して情報の共有化を図ることにより、問題行動等の早期発見・早期解決を図る。日頃より学年会、学年団会の時間を確保し、指導の一本化を図るとともに、複数の教員で対応し、組織的に解決を図る。	A	A
	学校は、基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組んでいるか。	B	<u>令和5年度保護者アンケート結果より</u> 「身近な人にあいさつをしている」82% 「学習用具の準備や片付けをしている」66% 「きまりを守って規律ある学校生活を送っている」90% 全校朝会で折にふれ、あいさつの大切さを指導するとともに、週の生活目標に「あいさつ」の充実を目指す項目をさらに増やし、指導する。	A	A

様式 4

	学校は、危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行っているか。	B	学年に応じたセーフティ教室の実施、各種相談窓口の紹介、自殺予防教育、健康教育など、年間計画に基づいて実施している。長期休業前の生活指導だけでなく、計画的・継続的に、また必要に応じて全体指導及び学年指導を取り入れている。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等				
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行っているか。	B	職員会議等を通して、教職員に学校経営目標や方針について周知するとともに、学校経営達成目標を設定し、実践する職務遂行能力の向上を図る。コロナ後の学校行事について検討し、ねらいに基づいた新しい計画を立案し、実施する。	B	B
	学校は、子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行っているか。	B	児童のふり返り、保護者アンケート、教職員の学校評価の結果を比較・検討しながら、日々の教育活動の改善に生かし、具体的な目標の設定、実施、評価、改善のサイクルを充実させる。	B	B
	学校には、適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整えているか。	A	<u>令和5年度保護者アンケート結果より</u> 「学校安全について（訓練・清掃・設備）」88% 月1回の学校安全点検を踏まえた学校内の施設並びに教室内の環境整備を行う。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等				

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行っているか。	A	<u>令和5年度保護者アンケート結果より</u> 「学校公開や学校だより、学校HP等で教育活動を適切に説明していますか。」90% 4月の授業公開実施により、担任及び授業の様子を参観する機会を設けたことや、対面式の保護者会で、学校の教育目標や子供たちに守らせるべきルール等を丁寧に説明できたことが、保護者の安心に繋がったと考える。 学校ホームページにおいて、給食（毎日）、学校の様子（毎週）、児童の様子（毎月）を更新するとともに、学校からの配信メールやウェブアンケート等を活用してきた。今後も計画的に発信する。	A	A
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行っているか。	B	<u>令和5年度保護者アンケート結果より</u> 「学校はPTAや地域と協力して教育活動や行事の運営を行っている。」88% コロナ禍が明けることにより、新しい取組を始めたり、PTA行事や錦糸子ども教室を工夫して取り組んだりすることができた。 開校105周年記念行事や、全学年・全保護者が一堂に会する運動会を実施するにあたり、PTA本部を始め、保護者や地域の方々から多くの協力をいただいた。引き続き連携を深めていく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等				

2 令和5年度学校評価のまとめ

- コロナ禍が明け、少しずつ教育活動が活発になる中、地域や保護者の方にご理解いただくために、学習の様子や活動の意図を発信し、学校 HP の充実を図ってきました。また、年度初めの授業公開や全体保護者会等、対面の機会を設けたことは、次年度からの活動にもつながると考えます。
- 校内研究を国語科とし、説明文を中心に教材分析や指導法について研究を進めてきました。次年度も継続し、研究についても HP で発信することで、教育活動の理解につなげたいと考えます。
- 地域を教材とした探究学習について、今年度も多大な協力を得たことに感謝いたします。生活科・総合的な学習の時間の研究において、地域の人々、関連施設、区役所の関係部署等の皆様から多大なる協力をいただき、子供たちの願いを実現できるよい学習の機会となっております。
- 学力向上に向けた取組では、学習習慣の定着を図るための各種シートやA I アプリの活用、放課後の補習学習、家庭学習の定着に力を入れてきました。日々の取組の成果が区学力調査の結果に繋がり、全国水準を上回る観点が多く見られました。今後も、校内研究や学力委員会を中心に、指導力向上・学力向上へ取組を進め、児童一人一人に学ぶ喜びを実感させていきたいと考えます。
- 開校 105 周年式典を始め、各記念行事の際には、地域、保護者の皆様の多大なるご支援、ご助言をいただき、つつがなく挙行することができましたことに感謝申し上げます。次年度は、開校 110 年に向けた一年になりますよう、PTA や地域の方々と連携しながら、日常の教育活動、児童一人一人の資質・能力の一層の向上に、教職員一同、全力で取り組んでまいります。

以上の通り報告いたします。

墨田区立錦糸小学校 校長 高山 幸 公印